

令和4年度 第2回恵庭市文化財保護委員会

日 時 令和5年3月23日（木）14:00～

会 場 恵庭市郷土資料館 研修室

● 会 議 次 第

1. 開 会

2. 挨 拶

- ・ 教育長
- ・ 委員長

3. 議 題

(1) 令和4年度主な事業報告及び経過報告について

- ・ 郷土資料館事業について
- ・ 史跡・埋文関連の主な事業について
- ・ 埋蔵文化財の保護について
- ・ 文化財防火デー防災訓練について

(2) 令和5年度事業計画について

- ・ 事業計画について
- ・ 史跡・埋文関連の主な事業計画について

4. その他

5. 閉 会

令和4年度 第2回恵庭市文化財保護委員会資料

令和4年度郷土資料館事業報告

	事業名	開催日	実施場所	参加人数・対象 (前年度参加人数)	事業内容（簡潔に記入）	決算額 (千円)	備考
展示事業	企画展「金属製品と保存科学の世界」	4月16日～5月22日 (31日間)	郷土資料館	724人 (－)	資料館では、令和元年度から3年度に、（公財）三菱財団等の助成や文化庁等の補助金を利用して、遺跡出土の金属製品の修復を実施した。それら貴重な金属製品を展示し、また修復の方法などについても写真やパネルで解説。	10	(小中学生 121名)
	企画展「石の魅力」	7月2日～9月4日 (51日間)	郷土資料館	1,963人	当館収蔵資料である縄文時代と現代の石製品・原石・化石のほか、個人所蔵の化石を展示。また、石や鉱物などについて、写真やパネルで解説。	2	(小中学生 866人)
	企画展「特別公開2022 カリンバ遺跡重要文化財 漆塗り装身具」	中止	埋蔵文化財 整理室	－ (－)	年に1度、カリンバ遺跡の重要文化財 漆製品の実物資料を展示公開。	－	新型コロナのため
	写真展「恵庭の歴史」 第一部：明治～昭和初期 第二部：昭和10年代～45年	①10/8～10/21 ②11/26～12/18	郷土資料館	①285人 ②313人 計598人	恵庭に役場ができて100年目を迎えたことを記念して行われた恵庭市開基100年記念事業の開催から25年となる。当時、プレ記念事業として行われた写真展で 展示された写真を紹介し、四半世紀を経て再び恵庭のあゆみを振り返る。	0	①(小中学生30人) ②(小中学生107人)
	恵庭消防創立100周年1年前記念展	11月3日～11月20日	郷土資料館	704人	恵庭市消防本部共催事業。大正12年に恵庭村消防組が公設されてから令和5年で創立100周年を迎えるにあたり、消防のあゆみを振り返る。消防クイズ、11/3のスタートイベントでは消防車両展示、放水体験を実施。	5	(小中学生 244人)
	令和4年新収蔵資料展	1月4日～1月26日	郷土資料館	174人 (112人)	令和4年中に寄贈を受けた33件 283点の資料の中から生活用具など50点を紹介。	0	(小中学生 36人)
	ひな人形展	2月4日～3月12日 (開催中)	郷土資料館	745人 (2月末現在)	これまでに寄贈を受けた明治から平成までの8組のひな人形を展示。	0	(小中学生 411人 2 月末現在)
	常設展示室入替展 「戦争資料展」	8月2日～8月25日	郷土資料館	811人 (593人)	常設展示室「昭和コーナー」を一時撤収し、市民より寄贈を受けた戦争関連資料 約70点を展示	0	(小中学生 328人)

令和4年度郷土資料館事業報告

教育普及事業	アイヌ政策推進交付金	アイヌマスター育成事業	6月～2月（計9回）	郷土資料館他	中学生6人 (中学生4人)	市内に在住する中高生のうち公募した6名が、計9回の講座や体験でアイヌ文化を学ぶ。	903	(小中学生6人)
		アイヌ文化学習見学会事業1回目	6月18日	平取・新ひだか町	25人	市民を公募し、平取町と新ひだか町の博物館や遺跡で現地学芸員の解説を受けて、アイヌ文化を、学ぶバスツアーを実施。	88	(小中学生0人)
		アイヌ文化学習見学会事業2回目	7月24日	白老町	14人	市民（大学生以下）を公募し、国立アイヌ民族博物館でアイヌ文化を学ぶバスツアーを実施。	82	(小中学生7人)
	史跡普及事業	カリンバ土曜講座①	5月21日	郷土資料館	20人 (19人)	演題「金属製品と保存処理の世界」 講師：恵庭市郷土資料館 学芸員 杉浦正和	0	
		カリンバ土曜講座②	7月9日	郷土資料館	17人 (14人)	演題「島松軟石の建物について」 講師：恵庭市郷土資料館 学芸員 大林千春	0	
		カリンバ土曜講座③	9月10日	郷土資料館	13人 (13人)	演題「ユカンボシE1遺跡の発掘調査 ～令和3年度の発掘調査成果」 講師：恵庭市郷土資料館 学芸員 鈴木将太	0	
		カリンバ土曜講座④	11月19日	郷土資料館	18人	演題「カリンバコタンについて」 講師：恵庭市郷土資料館 学芸員 長町章弘	0	
		第9回カリンバ講演会	10月23日	市民会館	48人 (47人)	演題「新恵庭市史考古部門の執筆陣が語る恵庭の歴史」 講師 札幌国際大学縄文世界遺産研究室長 越田賢一郎氏外2名	31	(小中学生0人)
	見学会	歴史の道散策会	6月11日	見学地：市道恵庭線	14人	市道恵庭線沿いの歴史的にゆかりのある場所を説明しながら散策。	0	(小中学生2人)
		ふるさと散歩見学会「古里チョイ散歩」	①9月10日 ②10月8日 ③10月22日	見学地：市道恵庭線	① 2人 ② 3人 ③ 6人	郷土資料館ボランティアの会共催事業。 郷土資料館ボランティアが案内ガイドを務め、市道恵庭線沿の歴史的ゆかりのある場所を少人数で訪ね歩く。	5	(小中学生1人)

令和4年度郷土資料館事業報告

教育普及事業	観察会	自然観察会	5月28日	カリンバ自然公園とその周辺	20人	カリンバ自然公園とその周辺の野鳥を中心とする自然観察と国指定史跡カリンバ遺跡について解説。	5	(小中学生2人)
		漁川の生きもの観察会	8月6日	漁川あかね橋上流むつみ公園駐車場付近	5人	漁川に生息する魚や水生昆虫たも網で捕獲し、観察を行う。	0	(小中学生4人)
	学習体験	第9回カリンバまつり ～君も縄文人になろう～	7月23日	郷土資料館	83人 (31人)	市民から公募し、資料館学芸員を講師として勾玉作りと縄文土器作りを実施。資料館の中庭で北海道文教大学共同研究『ENIWA学』（代表：加藤教授）による朗読劇『銀河鉄道をカリンバの夜のために』を開催。	10	(小中学生30名)
	文化教育	クイズ&スタンプラリー	8月2日～8月14日	郷土資料館	延123人	夏休み事業。館内のスタンプを押し、企画展「石の魅力」に関連するクイズに正解した参加者にガチャ機より同展展示資料のキーホルダーを配布。	0	(小中学生123名)
		レコード鑑賞会	①7月10日 ②10月23日	郷土資料館	① 7人 ② 4人	郷土資料館ボランティアの会共催事業。収蔵しているレコードリストを提示し、参加者のリクエストに応じてレコードを視聴する。	0	(小中学生0人)
		ふるさと教育宅配事業	6月～11月	市内小学校	市内小学生	郷土資料館収蔵資料を4テーマごとに市内の8小学校に貸出し、巡回して展示を行う。	68	
	レファレンス	レファレンスの実施				約 10件 主な内容： ・福井県入植者について ・拾った貝殻について⇒北広島市教育委員会学芸員に依頼 ・史跡カリンバ遺跡について 等		
	資料収集	自然・郷土資料の収集				自然資料： アオバト(♀)剥製 岩石 鉱物 歴史資料： 明珍鉄工所資料 SPレコード 島松小学校保護者会記録 旧南12号漁川橋銘板 等 全25件 272点 (2/22現在)		

令和4年度郷土資料館事業報告

資料収集	郷土史及び高齢者の記憶にのこる歴史的事柄の記録				新たな調査は実施しなかった。		
	収集資料の電子化				収蔵資料管理データベースの整備 ・ 検索のための資料名、年代などの用語統一 ・ 資料の所在確認及び新保存箱への入替作業（全体の約80%終了） ・ 市民より寄贈を受けた8ミリフィルムのデジタル変換及び編集作業（30本編集終了・公開）		
史跡整備	・ ごみ拾い、花植え				5月28日（土）に市教委と近隣住民、カリンバの会、北海道文教大学教員・学生の協力を得て行った。参加人数は29名。	23	
	・ 草刈り				業者委託。6月と8月の年2回実施。	1,650	
	・ 水文環境調査				別紙参照。		
周知・刊行物	事業の周知				・ 1事業につきポスター・チラシを約70カ所に配布 配布先＝ 市内公共施設 小中学校 JR駅 デイサービスセンター グループホーム ・ 市広報 市ホームページ 新聞 タウン情報誌に情報掲載 ・ 転入者に対する利用案内 市民課を通じて来館者用リーフレット配布（年500部）		
	刊行物				・ 資料館だより（4回） 配布先＝ 市内公共施設 小中学校等（各回280部） ・ 郷土資料館年報22（隔年） 配布先＝ 市内小中学校等（30部） ホームページ上にも掲載		
啓発活動	館内説明案内サービス				随時実施		

令和4年度郷土資料館事業報告

啓 発 活 動	学校教育等との連携				・ 昔の人の道具調べ（小学３年生の社会科単元） 6校来館		
------------------	-----------	--	--	--	---------------------------------	--	--

2月末総入館者数	6,399 人 (3,413人)
----------	----------------------

令和4年度 史跡・埋文関連の主な事業

1. カリンバ遺跡史跡整備事業

(1) 史跡カリンバ遺跡低地面整備工事

- ①概要：市道団地中央通側から史跡北側の低地面へアプローチする階段の設置と周辺の危険木の伐採を行いました。＊その後資料館職員が史跡説明板と安全柵の設置を行いました
- ②工期：令和4年6月30日から8月30日
- ③経費：2,027千円（国庫補助金 1/2、道補助金 1/4、市単独費 1/4）
- ④業者：(株) 園建

(2) 史跡カリンバ遺跡整備検討委員会

- ①概要：平成27年度に策定した『史跡カリンバ遺跡整備基本計画』の改訂版を検討するため開催しました
- ②開催日：令和4年8月10日
- ③経費：228千円（国庫補助金 1/2、道補助金 1/4、市単独費 1/4）

(3) カリンバ遺跡史跡等水文環境調査

- ①概要：資料館学芸員がボーリング孔の地下水位や旧カリンバ川三角堰の流量を月1回計測しましたが、水位や水量の著しい変化はありませんでした。
- ②経費：98千円（自記水位計等の更新、市単費）

＊史跡カリンバ遺跡整備事業の近年の動きは別紙参照

2. アイヌ政策推進交付金事業

(1) アイヌ文化マスター育成事業

- ①概要：公募で選出された市内の中学生6名がアイヌ語や恵庭市、白老町などのアイヌ文化を計9回の講座や体験等で学びました。8月と10月にはアイヌ文化が根付き、体験メニューの豊富な釧路市阿寒と平取・新ひだか町で1泊2日の研修を行いました
- ②経費：903千円（国庫補助金 8/10、青少年・文化振興基金 2/10）

(2) アイヌ文化学習見学会事業

- ①概要：公募した参加者をアイヌ文化が学べる施設へバスで引率しました。1回目となる6月は大人25名を平取町立二風谷アイヌ文化博物館や新ひだか町の史跡シベチャリチャシ跡等に、7月は子供とその保護者14名を白老町の国立アイヌ民族博物館に引率しました。単なる見学会にならないようにするため、平取町と新ひだか町では学芸員でもある館長に、国立アイヌ民族博物館では文化庁調査官に解説をいただくなどして、アイヌ文化やアイヌと和人とのかかわりを深く学べる学習見学会としました

②経費：161 千円（国庫補助金 8/10、青少年・文化振興基金 2/10）

3. 市内遺跡発掘調査等事業

（１）島松仲町遺跡個人住宅発掘調査事業

①概要：住宅建設に伴う発掘調査を行いました。詳細は別紙参照

②経費：2,278 千円（国庫補助金 1/2、道補助金 1/4、市単独費 1/4）

（２）ユカンボシ E1 遺跡個人住宅発掘調査事業（整理作業）

①概要：令和３年度に実施した住宅建設に伴う発掘調査の整理作業を行いました。詳細は別紙参照

②経費：3,982 千円（国庫補助金 1/2、道補助金 1/4、市単独費 1/4）

（３）試掘調査

①概要：試掘調査はルルマップ川 18 遺跡など 5 件行いました。詳細は別紙参照。

②経費：1,012 千円（国庫補助金 1/2、道補助金 1/4、市単独費 1/4）

（４）金属製品保存処理委託業務

①概要：市内遺跡の発掘調査で続縄文～擦文文化期の土坑墓から出土した大刀等 7 点の保存処理を行いました

②工期：令和４年４月 26 日から令和５年３月 17 日

③経費：2,732 千円（国庫補助金 1/2、道補助金 1/4、市単独費 1/4）

④業者：（公財）元興寺文化財研究所

4. 西島松 5 遺跡出土刀修復事業（展示・公開）

①概要：令和２～３年度に（公財）三菱財団の文化財修復助成 314 万円を活用し、恵庭市西島松 5 遺跡で擦文前期の土坑墓から出土した横刀（たち）２点と蕨手刀 1 点の修復を行いました。令和４年度は郷土資料館の特別展示室で企画展「金属製品と保存科学の世界」を開催し、今回修復した刀 3 点等の展示・公開を行いました

②開催日：令和４年４月 16 日から５月 22 日

③経費：10 千円（パンフレット製作費、市単独費）

5. 西島松 5 遺跡出土遺物整理事業

①概要：市教委では文化庁の指導のもと、令和３年度から恵庭市西島松 5 遺跡で擦文前期の土坑墓等から出土した遺物のうち価値の高い金属製品や土器の価値を高める作業を行っています。令和４年度は文化庁調査官が４月と８月に来恵し、令和３年度と合わせて計 155 点の土器や金属製品のリスト化を行いました

②予算：108 千円（青少年・文化振興基金）

6. 民間開発に伴う発掘調査等事業

①概要：商業施設（コメリ）建設に伴う柏木川 9 遺跡の発掘作業を行いました。調査は資料館学芸員 2 名を発掘担当者とし、民間業者（（株）シン技術コンサル）による発掘調査支援を受けて行いました

②調査地：柏陽町 3 丁目 266 ほか

③調査面積：3,039 m²

④調査期間：7 月 20 日～11 月 4 日

⑤調査結果

ア）遺構：竪穴住居跡 15 基（縄文早期 6、縄文前期 1、擦文 1、他は縄文中期が多い）、土坑・土坑墓 87 基（縄文中期が多い）、落とし穴 1 基等

イ）約 6,200 点（縄文早～後期、擦文）

⑥経費：54,608 千円

* なお、整理作業は令和 5 年度以降に行う予定です

史跡カリンバ遺跡整備事業について

●令和2年度以前

平成11年 恵庭市による緊急発掘調査。合葬墓から漆塗り装身具が多数出土

平成17年3月 史跡指定

平成18年6月 合葬墓から出土した漆塗り装身具等397点が重要文化財に指定

平成20年度 「カリンバ遺跡整備計画策定委員会」が『基本構想』を策定

平成23年度 「史跡カリンバ遺跡保存管理計画策定委員会」が『保存管理計画』を策定

平成27年度 「史跡カリンバ遺跡整備基本計画策定委員会」が『整備基本計画』を策定

平成28～令和2年度 史跡の現況地形図の作成、水文環境調査、境界標設置等を実施

令和2年度 市の総合計画に史跡ガイダンス施設や公園整備の基本設計が位置付けられていたが、財政難等により延期

●令和3年度

・文化庁、道教委及び市内部（理事者等）と協議を重ね、令和4年度以降に新たに委員会を設置し、実現可能な整備基本計画の改訂版を策定することとしました。またそれと並行して史跡北側の低地面の整備を少しずつではあるが進めて行くこととしました。史跡ガイダンス等の設置については市単独での整備は財政面等から困難であることから、複合施設や民間活用などの手法を検討することとなりました

●令和4年度

○8月10日に新たに設置した「史跡カリンバ遺跡整備検討委員会」を開催しました。委員会の要旨は下記のとおりです

○事務局案

- ・整備基本計画を実現可能なものに改訂する
- ・南東側周辺地区を史跡関連用地から外す
- ・低地面の整備を変更（木道の代わりに木製階段・看板等設置）

○委員・オブザーバーの意見

ア) 全体にかかわること

- ・企画・財政部門と費用や整備内容等を検討すること
- ・整備基本計画は「長期計画」と「短期計画」に分けて記載すること
- ・整備の実現性を高めるために改訂版を出すがあるが、例えば「事業の集約化を行う」、「維持管理の質的向上を行う」、「整備の促進を促すため」など具体的に書くと改訂の理由、積極性が明らかになる

イ) 南東側周辺地区

- ・南東側周辺地区を外す積極的な理由を書いたら良い
- ・改訂版には南東側周辺地区が史跡関連用地となった経緯を掲載し、実際に検討したら南東側周辺地区を史跡関連用地から除外しても隣接する史跡の東地区にも20m幅位の樹林帯があるので景観が損なわれるということはない、と記載すれば良い

ウ) 低地面整備

・令和4年6月から既に「史跡カリンバ遺跡低地面整備工事」として史跡北地区の低地面へアプローチする階段の設置等の工事を行っているが、順番が違う。今後は本委員会で検討し、基本・実施設計を経て行うこと

・低地面の下に当時の人が生活していた場所があることを来場者に伝えることがいちばん大事。低地の来場者は、旧カリンバ川の流れを知りたいので、部分的にでも見える場所を作る。これは低地の部分をこれからどうやって整備していくかに繋がっていく。奥の方から道路側に流れてくるのを見せるにはどうする必要があるのか。木道を取り止めるなら川の流れがほぼわからなくなるので、どうするかを盛り込むこと

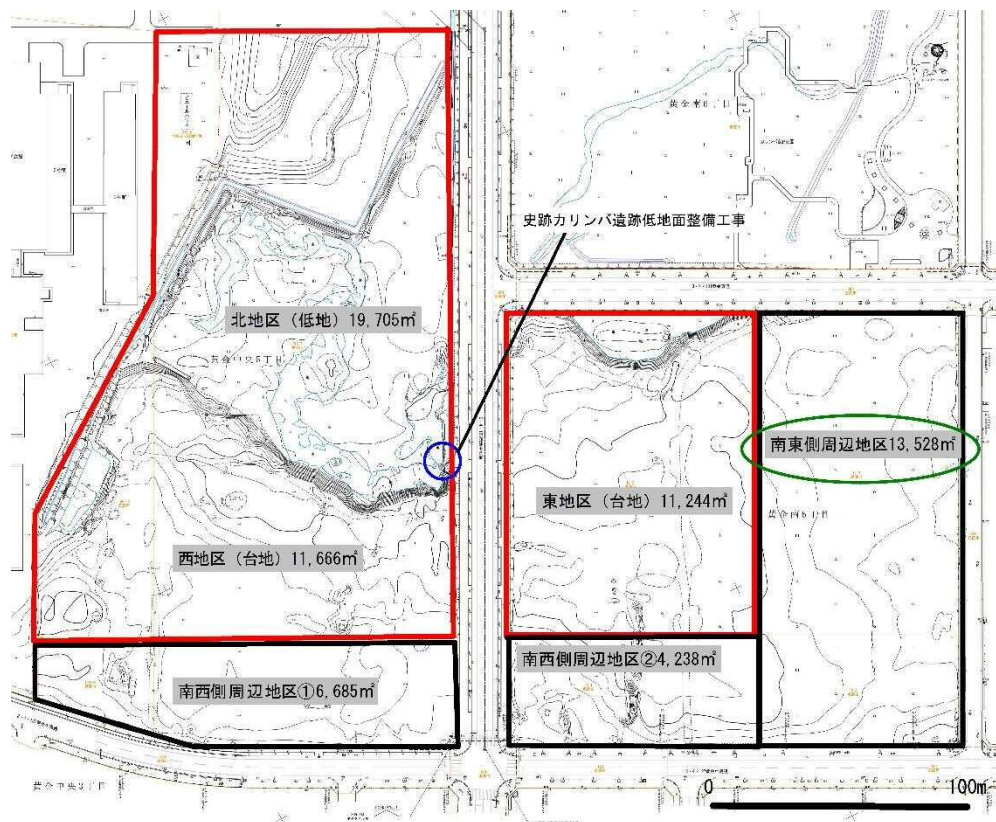
・木道を取り止めると史跡への来場者の外からのアクセスや中の動線を変えることになる。どう入って来てもらって、どう動いてもらい、どこで止まってもらうのか。どこを見せ場とするのか。例えば見せ場が段丘涯だとしたら、あの木製階段から見せるのか、または上から見せるのか、そういったアクセシビリティ（利用のしやすさ）、施設との関係を精査する必要がある。ただ木道を無くしましたでは説得性に欠ける

・市民感覚から考えると「自然学習ゾーン」が最も親しみやすい。旧カリンバ川があり、カリンバ自然公園に木道がある。ここを市民に親しまれるような形に持っていくことが重要

・昨今のゾーン分けは、例えば湿地帯の方に遺物がたくさんあるという状態であれば、そこは保護ゾーンで何もしない、とすることが多い。だから、中に人も入れなければ、工作物も設置しない。管理が大変だからといった理由ではなく、そこは後世に残すエリアなのであまり利活用しないと位置付けることが多い。「あそこは保護区域で今回の整備はしないで、後世に残す」というふうに、ゾーニングを変えて「動線計画に入らない」とかしてもらえば矛盾は減ってくる

・木道の設置を取り止める理由として、遺跡の特徴を理解するのに、そこまで遊歩道を広げなくても良いとする

・北地区の湿地帯は史跡指定地の中なので、なぜ木道を止めたかは、北地区は多くの遺構や遺物が土中にまだあるので、あまり立ち入らない区間にするというように、目的みたいな、ゾーン的なものの存在を変えると良い



史跡と関連用地

令和４年度 埋蔵文化財の保護について（３月１日現在）

〇市内遺跡発掘調査等事業

1. 発掘調査

（１）島松仲町遺跡

調査原因：個人住宅建築に伴う行政目的記録保存調査
調 査 地：島松仲町３丁目 343 調査面積：85.6 ㎡
調査期間：５月 30 日～6.月 17 日
遺構：土坑 1・焼土 2
遺物：縄文時代早期～後期の土器・石器 約 580 点
発掘調査報告書は令和 5 年度刊行予定

2. 所在・試掘確認調査

（１）ルルマップ川 18 遺跡（新規登載）

調査原因：宅地造成に伴う試掘確認調査
調 査 地：島松寿町 1 丁目 128-1 ほか 調査面積：2475.95 ㎡
調査期間：５月 16 日
遺構・遺物：耕作土に遺物あり、遺物包含層は全面削平により消失
調査結果：工事着工可

（２）ボンオサツ遺跡隣接地

調査原因：太陽光発電施設に伴う所在・試掘確認調査
調 査 地：戸磯 552 ほか 調査面積：40,000 ㎡
調査期間：４月 4 日（所在）、５月 18～20 日（試掘）
遺構：遺物：なし 調査結果：工事着工可

（３）ユカンボシ E2 遺跡

調査原因：宅地造成に伴う試掘確認調査
調 査 地：和光町 5 丁目 496-20 調査面積：約 1,805 ㎡
調査期間：７月 6 日
遺構・遺物：なし 調査結果：工事着工可

（４）柏木工業団地 1 遺跡

調査原因：物件開発に伴う所在確認調査
調 査 地：北柏木町 3 丁目 142-1 ほか 調査面積：14,519.17 ㎡
調査期間：７月 12 日
遺構・遺物：なし 調査結果：工事着工可

（５）ユカンボシ E1 遺跡

調査原因：建売住宅工事に伴う所在確認調査
調 査 地：駒場町 4 丁目 692 調査面積：251.13 ㎡
調査期間：７月 13 日
遺構・遺物：なし 調査結果：工事着工可

（６）柏木川 9 遺跡

調査原因：柏陽中学校防球フェンス設置工事に伴う所在確認調査
調 査 地：柏陽町 3 丁目 265 調査面積：20.2 ㎡
調査期間：８月 4 日
遺構・遺物：なし 調査結果：要工事立会

（７）周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）範囲外

調査原因：土取工事に伴う所在確認調査
調 査 地：盤尻 433・463 調査面積：77,303 ㎡
調査期間：８月 30 日
遺構・遺物：なし 調査結果：工事着工可

(8) ユカンボシE12 遺跡

調査原因：個人住宅新築工事に伴う試掘確認調査

調査地：和光町4丁目625 調査面積：343.17 m²

調査期間：10月21日

遺構：土坑1基 遺物：土器・石器29点 調査結果：要発掘調査

(9) 周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）範囲外

調査原因：土取工事に伴う所在確認調査

調査地：盤尻364・365・366 調査面積：49,066 m²

調査期間：11月11日

遺構・遺物：なし 調査結果：工事着工可

(10) ユカンボシE14 遺跡

調査原因：工場新築工事に伴う所在・試掘確認調査

調査地：戸機616-6・617-5 調査面積：3,228.21 m²

調査期間：12月27日（所在）、1月25～27日（試掘）

遺構：土坑8基 遺物：土器・石器29点 調査結果：要発掘調査・要工事立会

3. 整理作業

(1) ユカンボシE1 遺跡（令和3年度発掘調査の整理作業）

調査原因：個人住宅新築工事に伴う発掘調査

調査地：恵南6-8

作業内容：遺物洗浄・注記・分類・接合・復元等

作業期間：11月8日～3月31日（令和5年度中に残作業・調査報告書作成を実施）

遺物点数：土器10万点・石器500点・剥片類4万点・土製品100点・石製品20点等
縄文時代後期後半堂林式を主体とする土器、石鏃、土製耳飾、石棒等

4. 工事立会

(1) カリンバ5 遺跡

立会原因：ふるさと公園改修に伴う立木伐根・店舗新築・公園造成工事

立会地：黄金中央4丁目2

立会期間：5月12日（伐根）、6月27日・7月5日（店舗）、9月20・21・28・29日（公園造成）

立会結果：遺構・遺物なし

(2) 西島松10 遺跡

立会原因：防災無線新設工事

立会地：恵み野里美2丁目13-6（さとみ公園）

立会期間：6月23日・10月11～13日・11月1日

立会結果：遺構・遺物なし

(3) 島松旭町2 遺跡

立会原因：防災無線更新工事

立会地：島松旭町3丁目107（あさひ公園）

立会期間：6月28日・11月11日

立会結果：遺構・遺物なし

(4) 柏木川9 遺跡

立会原因：柏陽中学校防球フェンス設置工事

立会地：柏陽町3丁目265

立会期間：10月11～13日・11月1日

立会結果：遺構・遺物なし

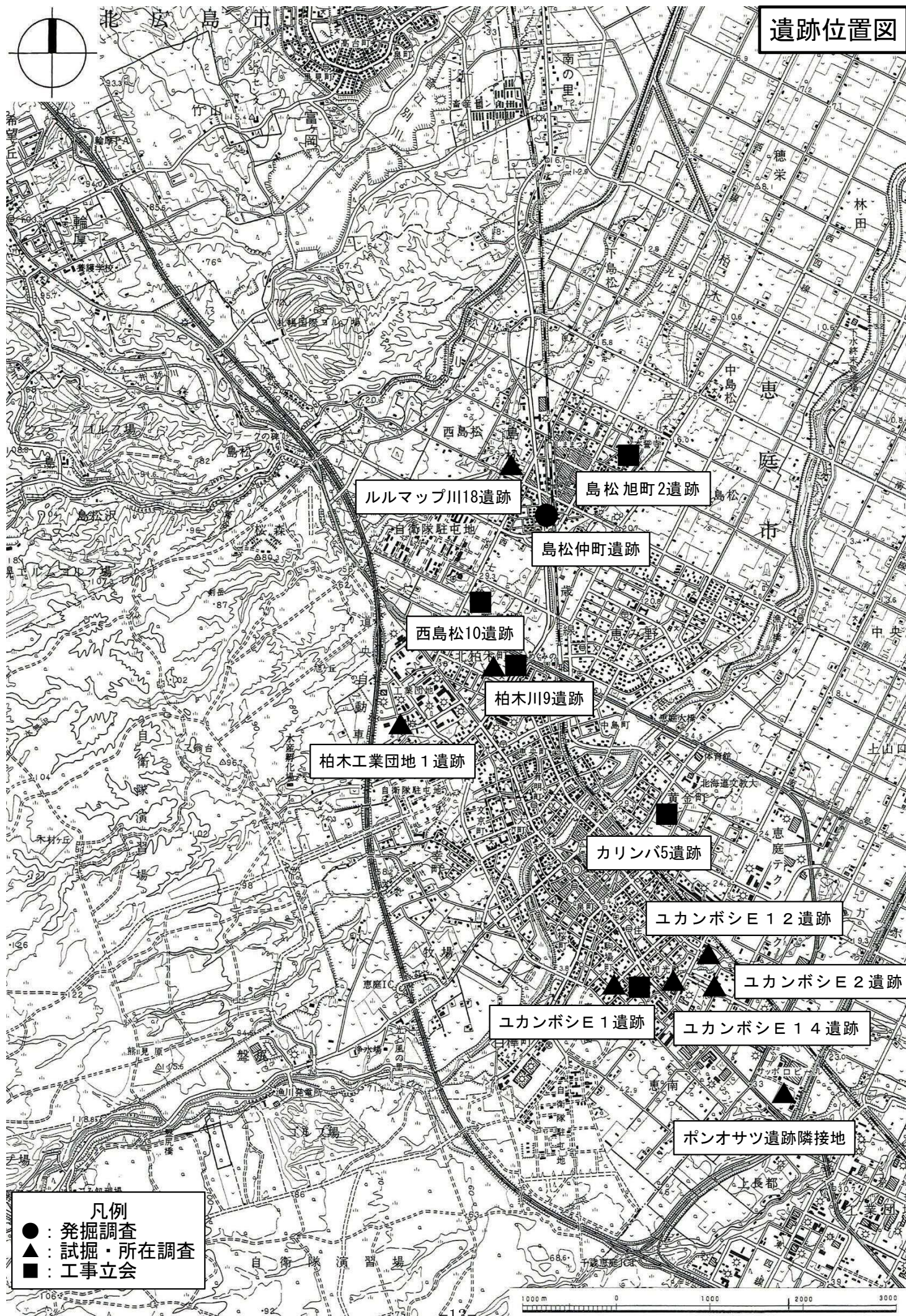
5. 埋蔵文化財保護のための事前協議

19件（過年度継続含む）

6. 埋蔵文化財包蔵地の照会

80件

遺跡位置図



第69回文化財防火デー 防災訓練実施要領

1. 趣旨

1月26日は、法隆寺金堂壁画が焼損した日（昭和24年）にあたることから、この日を文化財防火デーに定め、文化財を火災、震災、その他の災害から守るため全国的に文化財防火運動が展開されており、恵庭市においてもこの運動の一環として防災訓練を行い、市民の文化財愛護思想・防火意識の高揚を図る。

2. 主催

恵庭市教育委員会、恵庭市消防署南出張所、宗教法人 天融寺

3. 日時

令和5年1月26日（木）14:00～15:00

4. 実施項目 重要文化財の防災訓練

（1）文化財の名称 北海道有形文化財「阿弥陀如来立像」

（2）実施場所 恵庭市上山口476番地 宗教法人 天融寺

（宮本浩尊住職、宮本春美防火管理者）

電話32-3782

5. 訓練想定

放火により本堂西側から出火、本堂の火災報知設備が作動されことにより関係者は119番通報、初期消火及び文化財の保護・搬出を行う。

6. 実施内容

（1）訓練内容

- ・ 天融寺による通報避難訓練、自衛消防隊の初期消火訓練
- ・ 天融寺による文化財の搬出、教育委員会による検証
- ・ 市消防署南出張所による放水、訓練検証

（2）参加者

- ・ 天融寺 宮本浩尊住職 ご家族及び付近在住者・檀家 約20名
- ・ 市消防署南出張所 消防車両1台 3名
- ・ 市教育委員会 4名 （竹内教育部長 高橋館長 太田主査 大林主査 ）

令和 4 年度 文化財防災訓練等実施状況報告

市町村名

恵庭市

行 事 名 称	第 69 回文化財防火デー 天融寺防災訓練
実施期間・日時	令和 5 年 1 月 26 日 (木) 14 : 00~14 : 40
実 施 場 所	天融寺 (恵庭市上山口 476)
主 催 者	天融寺 恵庭市消防署南出張所 恵庭市教育委員会

■実施内容

訓練の想定

本堂北側から出火。本堂の火災報知設備が作動されたことにより関係者は 119 番通報、初期消火及び文化財保護のため搬出を行う。

訓練の内容

・通報避難訓練 ・文化財の搬出と検証 ・自衛消防隊による消火訓練 ・消防による放水 ・訓練検証

参加者及び役割分担

天融寺・檀家役員・付近在住者 (7 名) = 119 番通報 自衛消防隊の消火訓練 文化財搬出
 教育委員会 (4 名) = 現場立会い 講評 記録写真撮影
 恵庭市消防署南出張所 (3 名) = 全体統括 放水訓練 講評

特に工夫した点

日常の危機管理意識を高めていただくよう、実際に 119 番へ通報し、火災報知器を作動させ、より実感がわくように訓練を実施した。特に檀家・付近在住者で構成される自衛消防隊は、屋内消火栓を使った消火訓練を行い、手順の再確認を行った。

問題点・課題

冬季間は、敷地内通路の除雪を徹底し、緊急車両の進入、消火活動の妨げとならない状況の維持に努める。

その他

訓練風景

別紙のとおり



発煙筒点火



消火班の消火器による初期消火



文化財搬出



自衛消防隊の屋内消火栓による消火



消防車両による消火



天融寺住職の挨拶

令和5年度郷土資料館事業計画（案）

事業名	期日	対象	趣旨	
展示事業				
1.常設展示	通年	一般	郷土の自然・歴史・文化の展示解説（戦争資料展 他）。	
2.カリンバ遺跡展（常設）	通年	一般	平成11年度、調査されたカリンバ遺跡出土品、土坑墓レプリカを漆製品（複製）、玉等を中心に展示。	
3.（仮）明珍鉄工所展	7月8日～8月27日	一般	明治期より恵庭の産業と生活を支え続け、昨年（令和4年）、125年の歴史に幕を降ろした明珍鉄工所について、これまで寄贈を受けた資料を紹介し、その功績を振り返る。	
4.特別公開2023国指定重要文化財カリンバ遺跡出土品展及び市内遺跡ミニ展示	9月16日～18日	一般	埋蔵文化財整理室において普段は展示していない重文の漆製品（実物）を特別公開。市内遺跡で見つかった土器等のミニ展示も実施。	
5.令和5年新収蔵資料展	1月	一般	令和5年中に寄贈を受けた資料を紹介。	
6.収蔵資料展	随時	一般	収蔵資料の中からテーマを決めて展示。	
教育普及事業				
1.見学会・講座		一般		
(1)ふるさと散歩見学会「古里チョイ散歩」	6月～10月		ボランティア共催事業。市内の歴史的スポットを見学。	
(2)カリンバ講演会	9月30日		恵庭地域における先史時代の黒曜石利用について	
(3)カリンバまつり	7月22日		土器作り、勾玉作り	
(4)カリンバ土曜講座	5～11月		資料館学芸員4名が計4回の講座を実施。	
2.観察会				
(1)自然観察会	5月	一般	カリンバ遺跡周辺の野鳥を中心とする自然観察。	
(1)漁川の生きもの観察会	8月	小中学生	市内の川に生息する魚類・水生昆虫の観察。	
3.体験学習会		小中学生		
(1)昔の道具体験	5・10月		収蔵資料の中から安全に動かすことができる資料を選択し、体験する。	
(2)昔のあそび体験	5～10月		屋外やホールで使用可能なもののみ実施する。	
4.レファレンス		一般		
(1)レファレンスの実施	随時		郷土の自然・歴史・文化にかかる市内外からの問い合わせに対して、調査し回答を行う。	
5.資料活用		市内小学校		
(1)ふるさと教育宅配事業	5～10月		ふるさと教育の一環として、収蔵資料の内、貸出し対象資料となっている資料を各小学校に巡回させながら配送し、利活用の拡充を図る。	
6.アイヌ政策推進交付金事業				
(1)アイヌ文化マスター育成事業	6～翌2月	市内中高生	市内の中高生がアイヌ語や恵庭市、旭川市などのアイヌ文化を学ぶ。	
(2)アイヌ文化学習見学会事業	6月	一般	公募した参加者をバスで引率し、旭川市等でアイヌ文化を学ぶ。	
(3)アイヌ文化講演会事業	11月	一般	アイヌの文化や歴史についての講演会	
資料収集				
1.自然資料収集	通年		自然情報の収集保存。	
2.郷土資料収集	通年		郷土資料の収集保存整理。	
3.郷土史に関する調査	通年		聞き取り調査・写真による記録保存。	
4.高齢者の記憶に残る歴史的事柄の記録	通年		個人が実際に体験し、記憶の中に残っている恵庭の歴史を「個人の記憶の記録」として保存。	
5.収集資料のデジタル化	通年		収蔵資料のデジタル化を進め、事務の効率化を図るとともに資料公開に備える。	
史跡整備				
1.史跡整備 （①ごみ拾い、②花植え、③草刈り）	4～10月		①②春に地元町内会等と合同で実施 ③年2回（6・8月）業者委託で実施	
2.北海道縄文のまち連絡会	7月	加盟28市町村	7月にニセコ町で総会	

事業名	期日	対象	趣旨	
周知・刊行物				
1.市広報誌、新聞等の活用	随時			
2.資料館ホームページの充実と活用	随時			
3.郷土資料館だよりの発行	年4回		郷土資料館の事業案内を活動紹介。	
4.小学校へのチラシ配布	年1回		郷土資料館の事業案内。	
5.転入者に対する利用案内	通年	一般市民 (転入者)	転入者に対して恵庭市を理解するための学習施設の存在をPRする。	
啓発活動				
1.館内説明案内サービス	随時	一般	館内説明の充実。	
2.学校教育等との連携	通年	一般	学校教育・社会教育学習団体に対する利用促進の働きかけ。	

令和５年度 史跡・埋文関連計画の主な事業

１．カリンバ遺跡史跡整備事業

（１）整備事業

①概要：史跡整備検討委員会を２回開催し（夏と冬を予定）、平成 27 年度に策定した『史跡カリンバ遺跡整備基本計画』の改訂版を策定します。また、これと並行して史跡に隣接する学校法人 鶴岡学園との協働の可能性を検討して参ります。

②予算：679 千円（市単独費）

（２）カリンバ遺跡史跡等水文環境調査

①概要：引き続き資料館学芸員がボーリング孔の水位や旧カリンバ川三角堰の流量を月 1 回計測します。データ解析を専門業者に業務委託することとは行わない予定です。

②予算：なし

２．アイヌ政策推進交付金事業

（１）アイヌ墓副葬品等保管室設置事業

①概要：市内の遺跡から発掘調査で出土したアイヌ遺骨 11 体が令和 5 年度に地域返還される予定です。尊厳ある慰霊を実現し、慰霊に関する伝統文化を保存・継承するため、アイヌ墓副葬品等保管室の環境整備（アイヌ彫刻を施した遺骨を安置する木製棚の製作等）を行います。

②予算：1,466 千円（国庫補助金 8/10、青少年・文化振興基金 2/10）

*アイヌ遺骨の地域返還について

ア）国土交通省北海道局が所管するアイヌ遺骨 9 体について

昭和 62～平成 25 年に行われた市教委による遺跡発掘調査により、市内 8 遺跡のアイヌ墓 9 基から遺骨 9 体と副葬品が発掘されました。遺骨は札幌医大で性別や年齢を鑑定後、市教委は他の自治体と同様に引き続き遺骨の保管を医大側をお願いしておりました。令和元年 12 月に札幌医大を始めとする 12 大学が保管するアイヌ遺骨と副葬品が白老町の国立アイヌ民族博物館（通称ウポポイ）に造られた慰霊施設に集約されました。令和 4 年 4 月にウポポイの慰霊施設を管理する国交省北海道局から「関係団体等との調整が進んだので慰霊施設に集約したアイヌ遺骨 9 体については地域返還に向けて調整していきたい」旨の連絡が恵庭アイヌ協会と市教委にあり、恵庭アイヌ協会は国交省北海道局に「出土地域特定遺骨等返還申請書」を提出しました。令和 5 年 2 月には国交省が主催する第三者委員会が開かれ、恵庭アイヌ協会は地域返還団体として適切であると判断されました。地域返還は令和 5 年の秋頃を予定しています。

イ）北海道教育委員会が所管するアイヌ遺骨 2 体について

平成 17 と 19 年に行われた（財）北海道埋蔵文化財センターによる恵庭市西島松 2 遺跡の発掘調査によりアイヌ墓 2 基から遺骨 2 体と副葬品が出土しました。遺骨等は現在北海道立埋蔵文化財セ

ンターが保管しています。令和4年12月に恵庭アイヌ協会は道教委に「北海道教育委員会の保管するアイヌ遺骨等返還申請書」を提出しました。地域返還は令和5年の秋頃を予定しています

(2) アイヌ文化マスター育成事業

①概要：市内の中高生6名が恵庭市や旭川市などでアイヌ文化を学びます。またアイヌ文化を始めとした様々な民族の文化が学べる大阪府にある国立民族学博物館へ1泊2日で派遣し、アイヌ文化や様々な文化への正しい理解を深め、本市の多文化共生社会の実現へとつなげます。

②予算：1,129千円（国庫補助金 8/10、青少年・文化振興基金 2/10）

(3) アイヌ文化学習見学会事業

①概要：公募した参加者をバスで旭川市や鷹栖町のアイヌ文化関連施設に引率します。単なる見学会にならないようにするため、現地の学芸員に解説を依頼するなどして、アイヌ文化やアイヌと和人とのかかわりを深く学べる機会を提供する内容とします。

②予算：124千円（国庫補助金 8/10、青少年・文化振興基金 2/10）

(4) アイヌ文化講演会事業

①概要：アイヌ民族の文化や歴史に対する理解を市民の皆様に広げていくため、文化庁調査官を講師にお招きしアイヌ文化に関するご講演をいただきます。

②予算：5千円（国庫補助金 8/10、青少年・文化振興基金 2/10）

3. 市内遺跡発掘調査等事業

(1) 発掘調査

①市内遺跡発掘調査事業（ユカンボシE1 遺跡個人住宅・島松仲町遺跡個人住宅の整理作業及び報告書の作成、試掘調査）

②整理作業期間：4月～令和6年3月

③予算：13,767千円（国庫補助金 1/2、道補助金 1/4、市単独費 1/4）

(2) 金属製品保存処理委託業務

①概要：市内遺跡の発掘調査で擦文～アイヌ文化期の土坑墓から出土した鉄斧等18点の保存処理

②保存処理期間：5月～令和6年3月

③予算：3,226千円（国庫補助金 1/2、道補助金 1/4、市単独費 1/4）

4. 西島松5遺跡出土遺物整理事業

①概要：市教委では文化庁とともに令和3年度から恵庭市西島松5遺跡で擦文前期の土坑墓等から出土した遺物のうち価値の高い金属製品や土器の価値を高める作業を行っています。令和5年度は4月に文化庁調査官が来恵し、令和4年度までにリスト化した資料155点のクロスチェックを行います。その後令和6年1月までに管理台帳や集合写真等を文化庁に提出します。

②予算：なし

5. 民間開発に伴う発掘調査等事業（整理作業）

①概要：令和４年度に商業施設（コメリ）建設に伴う柏木川９遺跡の発掘作業を行いました。その整理作業を民間業者（（株）シン技術コンサル）の整理作業支援を受けて行います。

②経費：20,617 千円

令和5年度 郷土資料館予算(案) 概要

(単位：千円)

科 目	本 年 度 予 算 額	前 年 度 (当 初) 予 算 額	対前年度 比 較 (増▲減)	主 な 内 容
(款) 10 教育費				
(項) 1 教育総務費				
(目) 1 教育委員会費				
一般事務費 (郷土資料館)	28	90	▲ 62	
(項) 4 社会教育費				
(目) 3 文化財保存費	49,433	91,624	▲ 42,191	
郷土資料館 事業費	393	495	▲ 102	・文化財保護委員会 ・展示事業 ・各種教育普及事業
郷土資料館 維持管理費	6,309	6,023	286	・燃料費、光熱水費 他 ・清掃、機械警備、暖房機保守点検委託 他
カリンバ遺跡史跡 管理事業費	2,702	2,237	465	・各種普及啓発事業 ・史跡等用地草刈委託
カリンバ遺跡史跡 整備事業費	0	2,068	▲ 2,068	・工事請負費
西島松5遺跡出土資 料整理事業費	0	154	▲ 154	・文化庁調査官指導旅費
アイヌ政策推進 交付金事業費	2,719	2,114	605	・アイヌ文化マスター育成事業
市内遺跡発掘 調査等事業費	16,693	22,033	▲ 5,340	・個人住宅地発掘調査 ・試掘調査 ・金属製品保存処理
柏木川9遺跡発掘調 査事業費	20,617	56,500	▲ 35,883	・柏木川9遺跡発掘調査